知識と識別の霊、思慮と勇気の霊

中　道　基　夫

先日、阪神間の大学生が100人ほど集う集会で講演させていただく機会があり、その際に、「あなたはこの社会にどのような変革を望みますか」という質問をし、それぞれの考えを紙に書いて提出してもらいました。

提出された紙には、「格差のない社会、差別や偏見のない世界、自分のしたい仕事に就ける社会、戦争や争いのない平和な社会、笑顔で暮らせる社会」などという言葉が書かれていました。その率直で、偽りのない言葉に接し嬉しくなってきました。

しかし、これらの言葉の背後には、若者たちが生きづらさを感じている現実があります。そして、多くの若者が、社会が少しでも変わってくれればと願い、その希望を持ちつつも、その実現が難しいという現実に押しつぶされそうになっています。

キリスト教ではイースター（今年は4月20日）の50日目に、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日（ペンテコステ）をお祝いします。この聖霊というのがなかなか分かりにくいのですが、旧約聖書のイザヤ書にこの霊の力が記されています。「エッサイの株からひとつの芽が萌えいで、その根からひとつの若枝が育ち、その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、畏れ敬う霊」（イザヤ11:1-2）。これは希望を失った人々（切り倒された切り株）が希望（芽、若枝）を回復するメッセージです。その希望が強められ、そしてその希望を実現へと向かわせる力として「知恵と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、畏れ敬う霊」が与えられると述べられています。そして、その後には「子牛は若獅子と共に育ち、小さい子どもがそれを導く」(11:6) というありえないような平和のビジョンが描かれています。

ペンテコステには、現代の私たちにも聖霊が降ることを願い求めます。関西学院に集う一人一人にも「知識と識別の霊、思慮と勇気の霊」が与えらえ、子どもや若者たちが希望を失うことがないことを、そしてその実現に向けて知識、判断力、思索する力、そして何よりも勇気が与えられることを願います。そして、現実の難しさに押しつぶされるのではなく、ありえないと思えるようなことを望み見ることのできる力を願います。

（神学部教授）